

東芝殺菌健康灯<畜産用>取扱説明書

形 名：**GR-1511E^A** (50Hz用)
B (60Hz用)

定 格：電源電圧 A C 100V (入力電流0.3A, 入力電力19W)

適合ランプ：東芝殺菌健康ランプ **GL15E**

適合点灯管：東芝点灯管 **FG-1E**

このたびは、東芝殺菌健康灯<畜産用>をお買いあげいただきましてありがとうございます。行届いた管理のもとに製造しお手元にお届け致しましたが、万一不具合の点がございましたときには、お手数ながらお買いあげ店にお申し出ください。本品は殺菌作用の強い紫外線(殺菌線=波長 253.7ナノメートル)と健康増進作用をもつ紫外線(健康線=波長280~310ナノメ

ター)を同時に効率よく放射する東芝殺菌健康ランプ (GL15E) を使用した畜舎内取付器具です。乳牛に照射した場合、殺菌線により乳房炎の予防、健康線により皮膚に含まれているエルゴ、ステロールによりビタミンDが形成される効果繁殖障害の減少等の効果、鶏に照射した場合、ニューカッスル病等流行病の予防、産卵量の増加、発育の促進等の効果が期待できます。

ご使用法

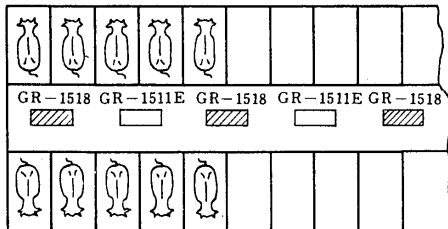
1. 牛舎に取り付け使用する場合

牛舎の構造、環境の違い等、種々の条件により取り付けかたも若干異なりますが、大略次の使用例に準じてご使用ください。

A. 取り付け灯数、取り付け方法

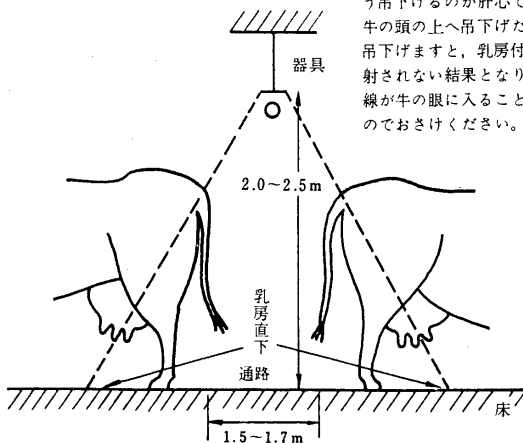
(1) 一般的なケースで、牛舎内飼養がほとんどの場合

乳牛4頭に1灯の割合で、本器具(GR-1511E)と別売りの東芝殺菌灯<畜産用>GR-1518を、下図の如く通路の中央部床上2.0~2.5mの位置に吊下げ、牛舎の床表面及び牛の乳房に直接紫外線が照射されるようにします。



※この場合、殺菌灯GR-1518と殺菌健康灯GR-1511Eを2回路にわけ夏期(4月~9月)は殺菌健康灯GR-1511Eの回路を切ることができるようスイッチを取付けておきます。

注) 乳房直下が最もよく照射されるよう吊下げるのが肝心です。牛の頭の上へ吊下げたり背の上へ吊下げますと、乳房付近に充分照射されない結果となり、強い紫外線が牛の眼に入ることになりまのでおさげください。

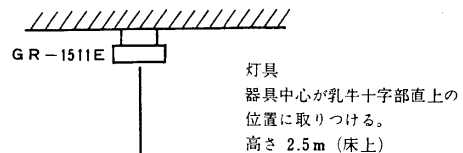
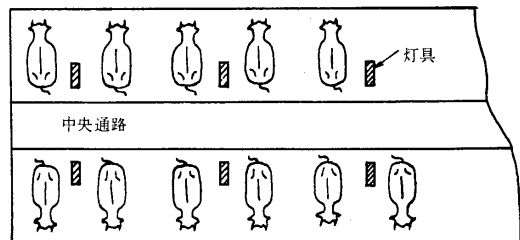
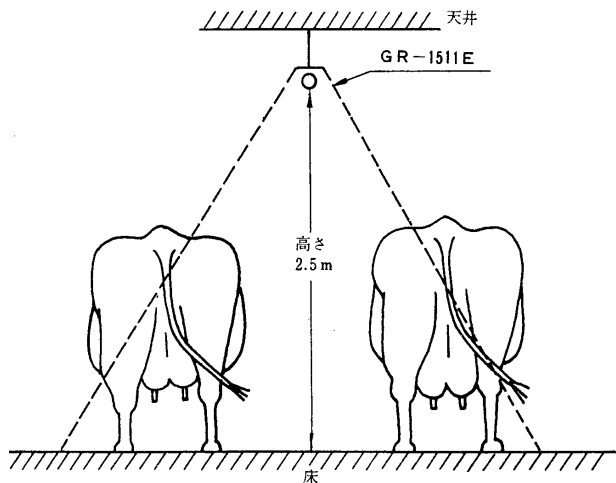


(2) 比較的環境よく太陽光線が十分牛舎に入る場合

乳牛4頭に1灯の割合で、別売りの殺菌灯<畜産用>GR-1518のみを(1)の取り付け例に準じて取り付け、乳房炎の予防を主眼に行なうようにします。

(3) 積雪地帯又は太陽光線がほとんど入らない牛舎の場合

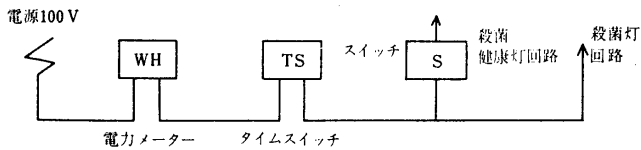
本器具GR-1511Eを乳牛2頭に1灯の割合で、下図の如く床上2.0~2.5mの位置に乳牛に平行して吊下げ、牛舎の床表面及び牛の乳房に紫外線が効率よく当るようにします。



灯具
器具中心が乳牛十字部直上の位置に取りつける。
高さ2.5m(床上)

B. 点灯時間

点灯時間は成牛で取り付け高さが2.5mの場合は1日3回(朝、昼、晩)の牛が起立して採食している時が効果的)各1時間30分、1日累計4時間30分が適当です。但し取り付け高さが2m程度の場合には照射時間を各1時間、1日計3時間程度にしてください。



●春～夏期に於ける照射

戸外の太陽光線の強い九州、四国、中国地方や、比較的環境よく太陽光線が充分入る牛舎は、春から夏期にかけては太陽光線がふくまれる自然の健康線量だけで十分です。従ってこの時期に本器具を冬期と同じように照射しますと自然の健康線と人工の健康線が重なって過剰照射ぎみとなり、乳量低下等の一時的な逆作用が起こる心配がありますので春から夏期にかけては本器具は消灯するのが最適です。

上記Aの(1)の場合、殺菌健康灯と殺菌灯(畜産用)は別回路に配線し、殺菌健康灯回路には夏期消灯用スイッチを設置しておくこと又両回路をまとめたところに多段式の東芝タイムスイッチ(TWM-822)を設置されると自動点滅管理ができ大変便利です。

2. 鶏舎に取り付け使用する場合

A. 取り付け灯数

平飼の場合は20m²(6坪)に1灯、バタリー、ケージでは14m²(4坪)に1灯の割合で取り付け灯数を決めてください。

B. 取り付けかた

鶏舎中央部(通路上又はケージ、バタリー上)床上2.0~2.5mの所に下向きに吊下げます。バタリー鶏舎で上部からは均等な照射ができない場合は横付けにしてください。

注) 灯具と鶏頭の距離は1m以上離すようご注意ください。

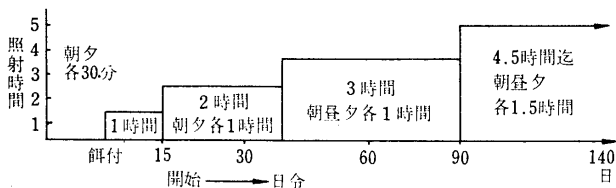
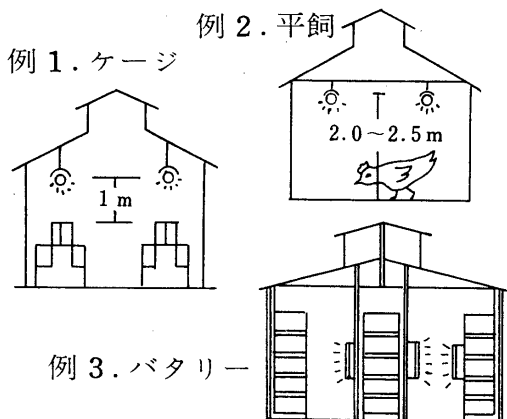
C. 点灯時間

*成鶏の場合

1日3回(朝、昼、夕)各1~1.5時間、合計3~4.5時間

*育すうブロイラーの場合

日令に従って下図のごとく実施してください。伯し、餌付け開始までは照射しないでください。



点灯時間の管理は、東芝タイムスイッチ(TWM-822)を使用されると安全、便利です。

注)

- 照射距離、時間、取り付け灯数の標準値は上記の通りですが①鶏体 ②個体差 ③照射開始日令 ④鶏舎構造 ⑤生体状況、⑥その他管理状態によって、生態に与える影響が若干異なることがありますので、実用にあたっては、次の点にご留意の上、点灯時間を調節してください。
- 点灯中の殺菌健康ランプからは、強い紫外線が放射されていますので、鶏体が過剰照射を受けると外観の変化としては、一時的に皮膚炎(日焼過度)、外線眼炎、内部症状としては、食欲減退、産卵率低下、肥育減退などをおこすことがあります。このような時には、照射を一時中止し、鶏体が平常に戻ってから改めて照射時間を短かくしてご使用ください。
- 鶏にはじめて殺菌健康灯を照射する場合、鶏の疲労、ストレス等を考えて、1~2週間は標準点灯時間の $\frac{1}{2}$ 位を照射し、鶏の生体変化の状況(鶏頭、特に肉冠、眼に異常がないか)を観察し問題がなければ標準点灯時間に増長してください。(不都合の場合、例えば鶏が眼をとじるとか鶏の眼が赤く充血している場合には、すぐ中止し、過剰照射でないかご検討ください。)
- 照射時間中は作業員は鶏舎に入らないよう、又殺菌健康灯と鶏頭との距離は必ず1m以上離すようにしてください。
- 日光の直射や強い反射光の入る構造の鶏舎の場合には、紫外線の総量が増えますので、若干点灯時間を短縮する必要があります。
- 鶏は、高温、多湿には比較的弱い生体ですので夏期は下表のように照射時間を制限してください。

期 間	照 射 要 領
6月~9月	照射時間は平常の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{3}{4}$ に制限してください。
10月~5月	この期間は殺菌健康灯照射効果の最も大きい時です。標準点灯時間で照射してください。

7) 生ワクチン投与の際は、照射時間をさけて実施してください。

●ご注意

点灯中のランプから強力な紫外線が出ていますので、作業員の顔や眼に直接照射を受けぬようご注意ください。多量に受けると、一時的に結膜炎症状をおこしますので点灯時間中は畜舎に入らないようにすること、短時間やむおえず入舎する場合は帽子をかぶり、メガネをかける等ご注意ください。

2) ランプの管壁あるいは器具の反射面にはこりがたまりやすくと紫外線が吸収され効果が減少しますので、乾いた布等で時々清掃してください。

3) 殺菌健康ランプ4000時間点灯後は、紫外線出力が始めの70%程度に減少しますから2年に一回程度新しいランプ(東芝殺菌健康ランプG L15E)と交換してください。